奈良時代

名前

問1　奈良時代の律令制度において、政府が農民を管理し、土地を割り当てるための基準とした仕組みと、その際に農民へ与えられた土地の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。（2018年 富山県公立入試 類似）

1. 戸籍に基づいて与えられた口分田
2. 戸籍に基づいて与えられた名田
3. 検地帳に基づいて与えられた口分田
4. 検地帳に基づいて与えられた名田

問2　奈良盆地の北部に位置し、碁盤の目状に区画された都市計画を持つ都があります。中央を南北に貫く朱雀大路を境に、東側を左京、西側を右京と呼び、さらに左京の東側には「外京」という張り出し部分が設けられていました。710年に唐の都である長安をモデルに建設されたこの都の名称として正しいものはどれですか。（2016年 長崎県公立入試 類似）

1. 藤原京
2. 難波宮
3. 平安京
4. 平城京

問3　律令制のもとで、6歳ごとに作成される戸籍に基づいて、6歳以上の男女に与えられた土地を何といいますか。（2023年 宮城県公立入試 類似）

1. 口分田
2. 公領
3. 荘園
4. 領地

問4　現在の奈良県に位置するかつての政治・宗教の中心地である平城京において、鑑真が私邸を与えられて建立した寺院はどれですか。この寺院には、唐の建築様式を今に伝える金堂などが残されています。（2026年 茨城県公立入試 類似）

1. 唐招提寺
2. 法隆寺
3. 興福寺
4. 東大寺

問5　平城京跡からは、当時の税の仕組みを知る手がかりとなる「木簡」が多数出土しています。例えば、紀伊国（現在の和歌山県）から塩が納められたことを示す記述が見つかっていますが、このような地方の特産品を納める税制度について、その特徴を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2026年 滋賀県公立入試 類似）

1. 都で年間10日間働く代わりに、布を納める義務
2. 収穫した稲の約3%を、各国に設置された倉庫に納める義務
3. 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務
4. 九州北部の防衛のために、3年間兵士として派遣される義務

問6　墾田永年私財法が発布された背景と、その後の社会に与えた影響についての説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 人口増加による食糧不足を解消するために開墾を促したが、結果として公地公民の原則が崩れ、荘園が生まれるきっかけとなった
2. 海外との貿易を盛んにするために港を整備したが、その土地を寺社が独占したため、海に接した広大な私有地が形成された
3. 仏教による国家の安定を目的として東大寺を建立したが、その維持費を賄うために地方の有力な武士を地頭に任命して土地を管理させた
4. 班田収授法をより厳格に運用するために土地を再調査したが、農民の負担が増えたため、土地を捨てて逃亡する者が続出した

問7　東大寺の正倉院には、青く透き通ったガラス製の坏（容器）など、当時の日本にはなかった高度な技術による宝物が多数収められています。これらの宝物が日本に伝わった経路や背景について述べた文として、適切なものはどれですか。（2026年 沖縄県公立入試 類似）

1. シルクロードを経由して西アジアなどから唐へ伝わった文化が、遣唐使によって日本へもたらされた。
2. 鎌倉時代の日宋貿易を通じて、中国から最新の製紙技術とともに輸入された。
3. 琉球王国の中継貿易により、東南アジア諸国の特産品が九州を経て近畿地方へ運ばれた。
4. 南蛮貿易により、ヨーロッパの宣教師がキリスト教の布教とともに献上した。

問8　周防国（現在の山口県）から「海塩二斗」を都へ送ったことを示す「木簡」が発見されているように、地方の特産品を徴収した律令制の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 収穫した稲の約3%を、地方の国衙にある倉庫に納めた。
2. 都での労働の代わりに、布を納めることで免除される税であった。
3. 各地の特産品を、納税者が自ら都まで運搬して納める義務であった。
4. 地方で年間60日を限度に、土木工事などの労働に従事する義務であった。

問9　奈良時代の8世紀中頃、人口の増加によって口分田が不足したことを背景に、朝廷は新たに開墾した土地を期限なく永久に私有することを認める法律を制定しました。この法律の名称として正しいものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 墾田永年私財法
2. 三世一身の法
3. 班田収授法
4. 版籍奉還

問10　古代の律令制下における土地と人民の管理について、戸籍と班田収授法の関係性を説明した文として、正しいものはどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 戸籍に登録された者は土地の売買が自由になり、国への返還義務も免除された。
2. 戸籍は税を徴収するための基礎資料であり、そこに登録された6歳以上の者に口分田が与えられた。
3. 戸籍は貴族の家系を証明するために作成され、一般の農民には口分田は与えられなかった。
4. 戸籍は兵役を逃れるための証明書として機能し、成人男性のみに口分田が割り当てられた。

問11　奈良時代の日本が、危険を冒してまで唐に「遣唐使」を派遣し続けた政治的な背景として、最も適切な理由はどれですか。（2021年 福島県公立入試 類似）

1. 律令制度などの優れた仕組みを学び、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため
2. 元（モンゴル帝国）の襲来に備え、大陸の軍事拠点と防衛同盟を結ぶため
3. キリスト教を国教として採用し、寺院の勢力を抑えるための新しい宗教政策を導入するため
4. 鎖国政策を維持するために、特定の貿易港でのみ交流を制限する交渉を行うため

問12　律令制度のもとで行われた兵役のうち、唐や新羅などの大陸勢力からの侵攻に備え、九州北部の沿岸警備にあたった兵士を何と呼ぶか。主に東国の農民が徴兵されたことで知られている。（2016年 静岡県公立入試 類似）

1. 守護
2. 国司
3. 防人
4. 地頭

問13　701年に大宝律令が制定され、律令国家としての体制が整えられた時期、さらなる国家の威信を示すために710年に藤原京から遷都された、現在の奈良県に位置する都の名称を答えなさい。（2021年 静岡県公立入試 類似）

1. 恭仁京
2. 平安京
3. 藤原京
4. 平城京

問14　8世紀初頭の710年に、唐の都である長安をモデルとして奈良の地に遷された都を何といいますか。712年に『古事記』が編纂された際の政治の中心地としても知られています。（2018年 鳥取県公立入試 類似）

1. 平城京
2. 平安京
3. 藤原京
4. 長岡京

答え合わせ・解説

問1	答え 1 戸籍に基づいて与えられた口分田	律令国家では、国民を把握するために「戸籍」を作成しました。この戸籍に基づき、6歳以上の男女に「口分田」を与えて耕作させる「班田収授法」が行われました。検地帳や名田といった用語は、後の時代（中世・近世）に登場する概念であり、奈良時代の制度としては不適切です。
問2	答え 4 平城京	元明天皇の時代に、それまでの藤原京から遷都された都です。唐の都である長安を模した大規模な都市計画がなされており、日本の律令国家としての体制が整えられた時期の象徴的な場所です。図で見ると左京のさらに東に張り出している「外京」には、東大寺や興福寺といった大寺院が建立されました。
問3	答え 1 口分田	律令国家における「公地公民」の原則に基づき、班田収授法によって人々に割り当てられた土地を口分田といいます。この土地は売買が禁止されており、本人が死亡すると国に返却するきまりとなっていました。このように土地を媒介にして国家が人民を直接支配する仕組みが整えられました。
問4	答え 1 唐招提寺	鑑真は来日後、まず東大寺に戒壇を築いて戒律を授けましたが、その後、自身の修行と門弟の育成のために唐招提寺を建立しました。この地は現在の奈良市にあり、平城京の面影を残す重要な歴史的拠点となっています。法隆寺は聖徳太子ゆかりの寺院であり、時代や建立の経緯が異なります。
問5	答え 3 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務	木簡は荷札として利用されており、そこには「調」として納められた特産品の内容や送り主の住所が記されていました。調は、地方の特産品を都の政府に納める義務ですが、運搬にかかる費用や食費もすべて納税者の自己負担であったため、農民の生活を圧迫する大きな要因となりました。
問6	答え 1 人口増加による食糧不足を解消するために開墾を促したが、結果として公地公民の原則が崩れ、荘園が生まれるきっかけとなった	律令国家の基本は「土地と人民はすべて国家のもの」という公地公民の原則でしたが、墾田永年私財法によって「私有地」が認められたことで、この原則が事実上崩壊しました。貴族や寺社は盛んに開墾を行い、集めた私有地は「荘園」と呼ばれ、後の時代の社会構造に大きな影響を与えました。地頭の設置は鎌倉時代の出来事であり、当時の荘園の多くは必ずしも海に面していたわけではありません。
問7	答え 1 シルクロードを経由して西アジアなどから唐へ伝わった文化が、遣唐使によって日本へもたらされた。	正倉院の宝物には、ペルシャ（西アジア）風のデザインやガラス工芸品が含まれています。これらはシルクロードを通って唐に集まったものが、遣唐使などの往来によって日本まで伝えられたもので、当時の日本が国際的な交流網の東端に位置していたことを示しています。
問8	答え 3 各地の特産品を、納税者が自ら都まで運搬して納める義務であった。	発掘された木簡には、どの地域からどのような特産品が送られたかの記録が記されており、当時の徴税の実態を裏付ける資料となっています。調は、納める品物だけでなく、それを都まで運ぶ運搬の負担も民衆に課せられていた点が特徴です。
問9	答え 1 墾田永年私財法	743年に制定されたこの法律は、それまで「土地はすべて国のもの」としていた公地公民の原則を大きく転換させるものでした。土地の永久的な私有を認めたことで、人々が自ら土地を切り拓く意欲を高めようとしましたが、結果として有力者による土地の独占を招くことになりました。
問10	答え 2 戸籍は税を徴収するための基礎資料であり、そこに登録された6歳以上の者に口分田が与えられた。	律令国家は6年ごとに「戸籍」を作成し、人々の年齢や家族構成を把握しました。この戸籍に基づいて、6歳以上の男女に一定の面積の「口分田」を与え、そこからの収穫物（租）を税として納めさせる仕組みが班田収授法です。この制度は国家が農民を管理し、財政を支えるための根幹となる仕組みでした。
問11	答え 1 律令制度などの優れた仕組みを学び、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	当時の日本は、唐の優れた法律（律令）や官僚制度、仏教による国家鎮護の思想を導入することで、天皇を頂点とした法に基づく国家づくりを急いでいました。遣唐使は単なる貿易のためだけでなく、先進的な国家運営のノウハウを吸収するという重要な外交的役割を担っていました。
問12	答え 3 防人	7世紀後半の白村江の戦いでの敗北を受け、大和政権は唐や新羅の侵攻に備えて大宰府や水城を整備し、九州北部の警備を強化しました。この任務についたのが防人で、主に東国（現在の関東地方など）から農民が徴兵されました。家族と離れて遠い九州へ赴く負担は非常に重く、彼らの心情を詠んだ歌は『万葉集』に「防人歌」として残されています。
問13	答え 4 平城京	唐の都である長安をモデルとして設計されたこの都は、碁盤の目のように道路が整備された条坊制が採用されました。710年に元明天皇によって遷都されてから、794年に平安京へ移るまでの約70年間、政治と文化の中心地となりました。
問14	答え 1 平城京	元明天皇によって、それまでの藤原京から現在の奈良市付近へと遷都された都です。碁盤の目のように区画された「条坊制」が採用され、律令国家の体制を整える象徴となりました。この都が置かれた約70年間を一般に奈良時代と呼び、同時期には『古事記』や『日本書紀』などの歴史書、歌集である『万葉集』などがまとめられました。